**小学生(低)礼拝8月②**

**親子の心を一つに（アブラハムとイサク）**

**聖句：**

**「あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った。」(創世記２２章１２節)**

今回は、アブラハムとイサクという親子のお話をします。

アブラハムは、聖書の中に出てくる、神様をとても信じ、愛した方です。

アブラハムは、サラという奥さんがいましたが、二人には子供がいませんでした。

ある時、アブラハムのもとに３人の神様の使いが現れ「来年の春には男の子が生まれるでしょう」という知らせを持ってきました。

そして、神様の約束通り、春には一人の男の子が生まれました。アブラハムは、その子の名前をイサクと名付けました。

イサクは小さい時から、神様を愛しているお父さん、お母さんの姿を見ながら育ちました。

アブラハムは、イサクに神様の事、供え物をして礼拝をすること、お祈りをすることなどを教えました。

アブラハムが、人に親切にしたり、お祈りしたりする姿を見ながら、イサクは、お父さんを心から尊敬しました。そうして、自分もお父さんのようになりたいと思っていました。

そんな、ある日、神様は、アブラハムを呼ばれました。

「アブラハムよ」。アブラハムは「ここにおります」と答えました。

神様は、「あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れてモリヤの地に行き、彼を燔祭としてささげなさい」と言われました。

燔祭とは、動物を焼いて神様にお供えするということです。イサクをそのようにしなさいと神様がおっしゃったのです。

「愛する息子を羊やヤギと同じように捧げるなんて」アブラハムはとても驚き、そして悩みました。アブラハムにとって、イサクは待ちに待って生まれた大切な一人息子です。その一人息子を失うなんて、どんなにつらいことでしょうか。

アブラハムは、今まで、神様の言葉を信じて沢山の恵みがありました。そして、イサクも神様が与えて下さった子供でした。だからこそ、アブラハムは神様のその言葉の裏には、何かお考えがあるのではないかと思い、親としてイサクを大切に思う気持ちを越えて、神様の言葉を守ろうと決意したのです。

そして、アブラハムは神様のおっしゃるとおり、次の日の朝早くに起きて、イサクを連れ、燔祭に使う薪を持って、モリヤの地に出発しました。

アブラハムは、イサクにたきぎを背負わせ、手に火と刃物を持って山に登りました。

しばらくして、イサクはアブラハムに「お父さん、火とたきぎはありますが、燔祭の小羊はどこにありますか？」と聞きました。

アブラハムは、「イサクよ、神様が燔祭の小羊を備えてくださるであろう」と答えました。

つまり、アブラハムは、イサクを燔祭として供えるということを、直前までイサクに話しませんでした。

二人は、神様が示された場所にきました。アブラハムは、イサクを強く抱きしめ、涙をこらえて真剣に話しました。「イサク、神様はお前を供えなさいと言われたんだ。お前は、神様の供え物になってくれるね、、、。」と。この時イサクは、12歳くらいだったので、お父さんの話していることを、はっきりと理解できる歳でした。

普通の子供だったら「死にたくない」と暴れたことでしょう。

イサクは、お父さんの目を見ました。その目は、小さい時から、自分を愛して見つめてきた、やさしい目でした。そして、神様を信じたお父さんの目でした。お父さんの後ろには、神様がいらっしゃるということが分かりました。

お父さんを尊敬していたイサクは、お父さんの言葉に「ハイ」と答えて従いました。

アブラハムはイサクを縛り、たきぎの上に載せ、アブラハムが、刃物をとって、まさに愛する一人息子イサクを殺そうとしたその時、

「アブラハムよ、アブラハムよ」と神様の言葉がありました。

「わらべを手にかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子、あなたのひとり子さえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った。」

それは、「本当に良くやってくれた。アブラハム、そしてイサクよ」という神様の言葉でした。

すると、角をやぶにひっかけていた一頭の雄羊がいるではありませんか。これは、神様からもうイサクを捧げなくてもよい、その代わりお羊を捧げよ、というメッセージでした。

アブラハムとイサクはお羊を捕らえ、神様の前に燔祭としてささげました。

この出来事を通して、神様は、アブラハムが自分の大切なもの以上に神様を愛し、信じることができるのか、そして、息子であるイサクが神様と父親の願いを知り、自分の命さえもささげることができる心を持っているのかどうかを確かめようとされたのです。

みなさんも、アブラハムやイサクのように神様や、真の父母様、お父さんお母さんを信じ、愛する人として立派に成長できるように頑張りましょう！